

渡嘉敷村内避難所・避難場所一覧

番号	施設名	施設区分	所在地	収容人数
01	渡嘉敷村役場	避難所	渡嘉敷 183 番地	56 人
02	渡嘉敷村中央公民館	避難所	渡嘉敷 209 番地	157 人
03	渡嘉敷村高齢者福祉センター	避難所	渡嘉敷 747 番地	125 人
04	渡嘉敷小中学校	避難所	渡嘉敷 355 番地	292 人
05	渡嘉敷幼稚園	避難所	渡嘉敷 355 番地	不明※
06	とかしき保育所	避難所	渡嘉敷 756 番地	29 人
07	国立沖縄青少年交流の家	避難所	渡嘉敷 2760 番地	785 人
08	森林公園ログハウス	避難所	阿波連 572 番地	23 人
09	阿波連小学校	避難所	阿波連 160 番地	253 人

番号	施設名	施設区分	所在地	収容人数
10	渡嘉敷小中学校運動場	避難場所	渡嘉敷地域	3206 人
11	国立沖縄青少年交流の家(広場)	避難場所	渡嘉敷地域	2080 人
12	村道 青年の家線	津波一時避難場所	渡嘉敷地域	—
13	林道 渡嘉敷線	津波一時避難場所	渡嘉敷地域	—
14	村道 大谷線	津波一時避難場所	渡嘉敷地域	—
15	渡民間道線	津波一時避難場所	渡嘉敷地域	—
16	タミシ山道線	津波一時避難場所	渡嘉敷地域	—
17	村道 渡嘉志久線	津波一時避難場所	渡嘉志久地域	—
18	林道 照房線	津波一時避難場所	渡嘉志久地域	—
19	阿波連小学校運動場	避難場所	阿波連地域	2621 人
20	村道 阿波連線	津波一時避難場所	阿波連地域	—
21	村道 照房線	津波一時避難場所	阿波連地域	—

※調査時には、なかったため不明

渡嘉敷①

国立沖縄青少年交流の家(本館)

救急用ヘリポート
備蓄倉庫あり

救急用ヘリポート

白玉之塔

渡嘉敷クリーンセンター

渡嘉敷港ターミナル

渡嘉敷

渡嘉敷村役場

渡嘉敷小中学校

渡嘉敷港

渡嘉敷村高齢者福祉センター

とかしき保育所

港の見える丘展望台

AED設置箇所(渡嘉敷)

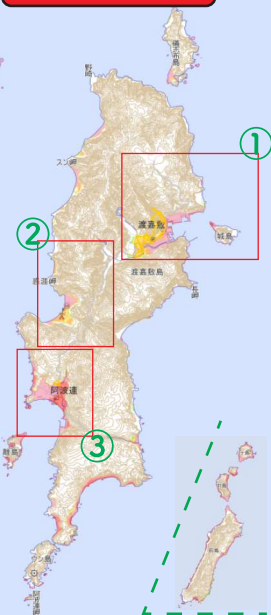
施設名

- 渡嘉敷村役場
- 診療所
- 国立沖縄青少年交流の家(本館)
- 渡嘉敷中央公民館
- とかしき保育所
- 渡嘉敷小中学校
- 渡嘉敷幼稚園

施設名

- 国立沖縄青少年交流の家キャンプ場
- 阿波連旅行行(管理棟)
- 阿波連小学校
- 渡嘉敷村高齢者福祉センター

渡嘉敷村防災マップ



凡例

⊗	駐在所
×	学校
〇	土砂流危険箇所
■	砂防指定地
■	土砂災害特別警戒区域
津波浸水予想区域	
0.01m以上0.3m未満	
0.3m以上1.0m未満	
1.0m以上2.0m未満	
2.0m以上5.0m未満	
5.0m以上10.0m未満	
10.0m以上20.0m未満	
20.0m以上	

渡嘉志久②

渡嘉志久

渡嘉志久ビーチ

国立沖縄青少年交流の家
海洋研修キャンプ場

縮尺1:5,000

阿波連③

森林公園ログハウス

備蓄倉庫あり

キャンプ場

展望台

阿波連ビーチ

阿波連

阿波連小学校

阿波連漁港

縮尺1:6,500

防災マップ

名前	生年月日	血液型
住所		
電話番号		

【防災リュックの中に最低限必要なもののリスト】

- | | |
|--|---|
| ☐ 飲料水（500mlペットボトル2～3本） | ☐ 携帯ラジオ（手動充電式が便利） |
| ☐ 非常食（2～3食分） | ☐ モバイルバッテリー |
| ☐ 飲料水（現金、免許証・保険証のコピーなど） | ☐ レインコート |
| ☐ 常用している薬（3日分と処方箋のコピー） | ☐ 災害用ホイッスル |
| ☐ くすりの種類 | ☐ 携帯トイレ |
| ☐ 救急用品（絆創膏、消毒液、常備薬など） | ☐ 一回分の着替え |
| ☐ マスク（建物崩壊による粉じんや感染症対策） | ☐ エマージェンシーシート |
| ☐ 懐中電灯（電池はつねに新しくしておく） | ☐ タオル |
| | ☐ ウエットティッシュ |
| | ☐ 使っていないメガネ、コンタクトレンズ |
| | ☐ 予備の乾電池 |

風水害 風水害から家族を守る知識と対策。気象情報をこまめにキャッチしてください。

台風		大雨・雷	
予報用語	平均風速(10秒)	予報用語	1時間雨量(ミリ)
やや強い風	10～15	やや強い雨	10～20
強い風	15～20	強い雨	20～30
非常に強い風	20～25	激しい雨	30～50
(暴風)	25～30	非常に激しい雨	50～80
猛烈な風	30～	猛烈な雨	80～

イメージ

亜熱帯に位置する沖縄は梅雨と台風の通り道となっています。平成15年9月10日に宮古島を直撃した台風14号は過去30年間で最大級の勢力で、最大瞬間風速は74.1mに達し、宮古島に甚大な被害をもたらしました。

中城村では、平成18年6月4日から降り続いた大雨の影響で地盤が緩み、6月10日北土原の村道で約80mにわたり道路が陥没。その後も雨は降り続き、新たに5m陥没し安里公民館裏手約40mの地点まで土砂が押し寄せました。この大雨により計86世帯に避難指示・勧告が出されました。地盤の弱い所や低地に住む方は、気象台から発表される情報を利用して早めの対策を心がけましょう。

1. 台風が接近したらまず家の補強。

補強する場所は、雨戸、窓ガラス、塀、物干し、アンテナ、看板など。接近までに時間が経つ場合は、防水シートや角材等も用意しましょう。また、植木鉢は強風で倒れたり、飛ばされる恐れがあるので1カ所にとまどくことと安全です。

2. 停電や断水に備え、非常品のチェック。

食料、飲料水、懐中電灯、ライター、ラジオ、簡単な医療品は揃えてリュックに入れておきましょう。

3. 気象情報に注意する。

台風等の気象情報は、テレビやラジオなどで最新の情報を収集し、町や防災機関の広報等にも注意して聞いているようにしましょう。インターネットでも最新の情報を見ることができます。
http://www.jma-net.go.jp/okinawa/ (沖縄気象台)

避難の時は・・・

- できるだけ軽装で避難しましょう。
- 裸足、長靴は禁物。ひもでしめられる運動靴がよいでしょう。
- はぐれないようお互いの身体をロープで結んで避難し、とくに子供から目を離さないようにしましょう。
- 水面下にはどんな危険が潜んでいるかわからないので杖など安全を確認しながら歩きましょう。
- 風で危険な物が飛んでくる恐れがあるので、ヘルメットや防災ずきん、または厚手の帽子などを被るようにしましょう。
- 災害に備え隣近所で声をかけ合い集団で避難しましょう。

災害に備える

災害から家族と自分の身を守るため、事前の準備と話し合いを持つことが重要です。まずは家からの避難場所、避難経路、はぐれた場合の集合場所・連絡網から決めておきましょう。また、被災時に我が家で必要な非常用品の中身を確認し、備えておく事も肝心です。もしもの時に備え、正しく安全に行動できる準備を行っておきましょう。

非常持ち出し品とは

動静先など外出中に被災する場合に備えて常に持ち歩く必要最低限のもの。

常備持ち出し品

一次持ち出し品

二次持ち出し品

救援物資が届くまでの3日間～数日間を過ごすためのもの。

普段からの備え

- ・防災について理解や協力を得る。
- ・災害時の行動計画の作成。
- ・地区内の危険な場所の確認。
- ・防災訓練の実施。
- ・防災地図の発行。

緊急メモ

家族構成

避難場所

避難場所（災害ごと）

家族の集合場所

家族・知り合いの連絡先

避難バックの準備の有無 ☐

家具の固定について

家具の固定で命を守りましょう。また、万が一倒れてきても安全なように、家具の向きを変更しましょう。

我が家の防災会議

災害に対する日頃の備えは、家族と家と災害から守るための基本です。なんに一度は家族での防災会議を開き、家族みんなで話し合うことが大切です。

停電時の連絡先:0120-586-701(那覇支店管内)

わが家・わが町を守ろう! 私たちの町にも自主防災組織を!

出火防止・初期消火、被災者の救出・救援・避難などの防災活動を地域住民が個々に行うのは限界があります。そこで、地域住民が団結し、組織的に行動することが必要になってきます。そのための自主的な組織こそ『自主防災組織』です。

渡嘉敷村役場

この防災マップは、現行の調査要領によって収集された情報を反映しております。地図で示す各管区区域以外でも、土砂崩れや浸水などの災害が起こる事がありますので住民一人一人の心がけが重要です。

〒901-3501
沖縄県島尻郡渡嘉敷村字渡嘉敷183番地
Tel:098-987-2321 Fax:098-987-2560
www.vill.tokashiki.okinawa.jp

地震 慌てず行動することが安全の第一歩。地震直後の津波情報にも耳を傾けてください。

ポイント1 落ち着いて身の安全を確保する

テーブルや机の下に身を隠すなどして、まずは自分の身を守ってください。

ポイント2 あわてず冷静に出火を防ぐ

使用中の火を素早く消しガスの元栓を閉める。もしも火が出たら隣近所に火を呼びかけ、落ち着いて消火にあたりましょう。

ポイント3 窓や戸を開け出口を確保する

建物のゆがみやドアが開かなくなる事があるので、出口の確保は確実にしましょう。

ポイント4 停電後の通電火災を防ぐ

避難で家を空ける時は、電気プラグを全て抜いておき、通電した際の漏電や倒れた電気ストーブなどによる出火を予防しましょう。

ポイント5 慌てず外に飛び出さない

落下物や建物の倒壊など外には危険がいっぱいです。周囲の状況をよく確かめ、落ち着いて行動しましょう。

ポイント6 狭い路地、塀ぎわ、川べりは要注意

狭い路地や塀ぎわでは、塀や自販機の倒壊、瓦の落下など危険が多いので遠ざかりましょう。川べりや崖は崩れる恐れがあるので近づかないようにしましょう。

ポイント7 山崩れ、崖崩れ、津波に注意

危険のある地域では早めに避難し、救助員の指示に従ってすみやかに行動しましょう。

ポイント8 正しい情報、正しい行動

うわさやデマに惑わされないよう、ラジオやテレビなどで正しい情報を把握しましょう。

ポイント9 避難は早めに、協力しながら...

お年寄りや体の不自由な人にも声をかけ、ケガ人の手当など、みんなで助け合い早めに避難しましょう。

津波 一瞬にして襲いかかる津波からの災害を防ぐためには、とにかく避難する以外にありません。

1. 地震の大きさと自己判断しない。

過去には、揺れが大きくなくても津波がおきた例があります。1996年の明治三陸地震津波では沿岸での震度3程度でしたが大津波が押し寄せています。津波災害が予想される地域では、小さい揺れでも、揺れを感じなくても、避難を最優先にしましょう。

2. 津波がないという俗説を信じない。

1993年の日本海中部地震では海岸付近にいた人々が津波にさらわれるなどの被害が多数発生しました。この地震が発生するまでは、日本海側には津波はない、などという俗説がもたらしくいわれていた為、津波に対する住民の警戒心が十分だったと指摘されています。根拠のない俗説に惑わされることなく、津波予報に耳を傾けましょう。

3. 「遠く」よりも「高く」に。

津波が起こる可能性がある場合は、直ちに高台の方へ避難してください。近くに高台が無い場合は、頑丈な鉄筋の建物（3階以上）へ避難してください。

4. 避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は1人ひとりと違います。それぞれが判断し、適切な行動を取らねばなりません。

正確な地震の規模が分かった場合

予想される津波の高さを、1m、3m、5m、10m、10m超の5段階で発表します。

予想される津波の高さ		発表する値
高さの区分		
大津波警報	10m～	10m超
	5m～10m	10m
	3m～5m	5m
津波警報	1m～3m	3m
津波注意報	20cm～1m	1m